

<第12回日本音楽療法学会四国支部学術大会(愛媛)を終えて>

第12回日本音楽療法学会四国支部学術大会

大会長 藤井澄子

平成28年11月23日(祝)に聖カタリナ大学で開催された支部大会には、多くの皆様にご参加をいただき盛況の内に終了しました。

今回の大会テーマは、「これからの高齢社会に音楽療法はどう貢献できるか」としました。そして、このたびの特徴として、教育講演および今大会初の「公開スーパービジョン」を行いましたので、概要を示します。

1) 教育講演「高齢社会の現状と提言」

「教育講演」として、恒吉和徳先生(聖カタリナ大学人間健康福祉学部教授)に、社会福祉のご専門の立場から「高齢社会の現状と提言」と題してご講演をいただきました。



高齢者支援のあり方について、先生は、①孤立対策、②支え合いを挙げられ、「居場所作り」や多様な「たまり場作り」を目標に、住民の力を創出して、住民主体の地域作りへと意識を変えていくことや、生きがい活動に貢献できる地域になっていくことの大切さを述べられました。

その中で、今後音楽療法の果たす役割は大きいのではないかと期待を述べられ終了しました。テンポのある語り口でパワーポイントを駆使し専門的内容を分かりやすくご講義いただき、参加者から感歎の声が揚がりました。

2) 「公開スーパービジョン」

教育講演に引き続いて、今大会初の「公開スーパービジョン」



を行いました。スーパーバイザーを昨年度の支部大会でご講演を頂いた生野里花先生(野花ひとと音楽研究所)にお願いしました。

スーパーバイザーとしては、四国で活躍している3人の音楽療法士である

堀内清美先生、本田あかね先生、西川詩乃先生に担当いただきました。

そして、それぞれの事例に対して、バイザーの困り感や問題点を生野先生に紐解いていただき、互いの実践をフロアともに学べた時間になりました。



3) ポスター発表

昼食後はロビーにてポスター発表が行われ、4名の発表者とともに活発な意見交換がなされました。



4) パネルディスカッション

最後のプログラムは、「音楽療法ってこんなに素晴らしい」

と題したパネルディスカッションを行いました。

パネラーとしては、愛媛で活躍している3人の音楽療法士（新緑先生、川東伸江先生、寺田光先生）による高齢者領域、精神科領域、ターミナル領域の体験発表が行われました。

助言者として恒吉和徳先生、生野里花先生、村井晴児先生にご登壇いただき、コーディネイターを藤井が務めました。とすると、閉鎖的になりがちな現場の雰囲気のパネラーの体験発表を通して参加者で分かち合うことができ、これからの音楽療法への意欲へとつながっていったのではないかと思います。

おわりに

このたびの日本音楽療法学会四国支部学術大会（愛媛）におきましては、以上のように盛りだくさんのスケジュールとなりました。

多くの会員の皆様のご参加およびご協力により、また先生方の温かいご協力ご指導を賜りまして、本会を終了することができましたことを、心より感謝申し上げます。

最後に、本部より新理事長村井晴児先生並びに越智事務局長には、ご多忙の中遠く松山までご参加いただき、ご指導を賜りましたことを、心より御礼申し上げます。皆様のご協力に感謝いたします。誠にありがとうございました。

